水源禅師法話集 74

（2017 年 5 月 1 日　大阪合宿 3 日目）

2018 年 1 月 21 日

一乗禅の会

目次

水源禅師法話……3
体験なしの「チッタ」で終わる「仏典教座 17 巻楞伽経」と実際で観る凄い差……3
ルーパの受想行識の分析を体験して初めてわかるナーマその前に物質も観なければ……5
正法と教典仏教の違いを誰も説明しない不可思議さ……5
正確に日本語で伝わっていない楞伽経「名色・行深・34 善心・正智」の事も ……6
ジャータカ物語の真髄の話で行く方が真如に到達できる・本当の真理を知る事……7
楞伽経の本当の意味 ……8
スメリアカルチャーの 3200 年の計略にあって、今がんじがらめに馬鹿されている……8
「デバダッタの十法」……10
「六部」……11
【四念処】(4 つの手法)で涅槃に到達できると何故日本のお坊さんは言わないか？……13
ジャータカ物語・ヴァーラーナシ―の「ブラフマブッダ」……14
「マンデラ・エフェクト」……14
お釈迦様が盗賊の大将だった時の陥れようとする大鳥達は竹林精舎の比丘二人……15
質疑応答……18
「マンデラ・エフェクト」よりもはるかに超えるお釈迦様の教え……18

水源禅師法話

体験なしの「チッタ」で終わる「仏典教座 17 巻楞伽経」と実際で観る凄い差

今日はですね、皆さんが、一般の方々が、これこそ正しい方の言われた正しい事を書かれた本と認識されているのが、その中の一つが「仏典講座」で、日本の精神界の人は必ず読む本なのですね。その中の一つが、講座シリーズの「仏典講座 17 巻楞伽経※」※楞伽経(りょうが経:Laṅkāvatāra Sūtra)。この事を達磨大師様が、ボディダルマ菩薩がインドに帰る途中に、長安を通って、これを最後に指し示した経典で、「これが最も大切なお釈迦様の言葉である」という事を解説した本なのですね。

誰が書かれたかという事をちょっと紹介します。この方は高崎直道(たかさきじきどう)先生、大正 15 年 9 月 6 日東京に生まれ、昭和 25 年 3 月東京大学文学部哲学科卒業、インド哲学専攻。東京大学教授を経て鶴見大学学長、東京大学名誉教授文学博士。という方が書かれた仏典講座。この肩書とこの本をただこう見ただけで、皆さんはどう感じますか？率直な意見で全然構わない。

【参加者】

本当の事らしい、素晴らしい事が書かれているのかなと思います。

【水源師】

はい。それでですね、最も大事な事は、お釈迦様が言われる阿頼耶識(アラヤシキ)の事から始まるわけですね。阿頼耶識。あのね、日本ではこういう事がもう最高の学問であると思っていますから、まあここから入って行きます。何故ニコニコしているかという事も、後であなた方は「なるほど、水源さんがニコニコしているのも、この事なのか」と、事細かに言って、みんな「ギョ、ギョ、ギョ！」と言ってしまうわけだ(笑)。

そうですね、ちょっと読んでみましょうか。少しだけ触りね、

仏典講座 17 巻楞伽経 9 0ページ「世尊の説く所の心、意識、五法、自性の想は、一切諸仏菩薩の所行にして、自心の見わすところに等しき所縁の境界と和合せず、一切の説と成との真実の相を顕示し、一切の仏語真たり。＊楞伽国摩羅耶山の海中を住居とする諸々の大菩薩の為に、如来の感ずる所の海浪の如き蔵識の境界たる法身を説き給え。」＊スリランカ　スリパーダ山＊

と、大菩薩様が仏に対して、こう質問するわけですね。かいつまんで、仏が何をどういう風に説いたかと言えば、

91 ページ「大慧よ、すなわち、かの五識身と供に、因の差別分断の相を知る者、当に知るべし、是れ意識にして、彼を因とする身をもて転ずるも、彼は是の念を作さず。我は展転して相いに因たり。自心の現ずる妄想に計著するより転ずるなりと。而も彼は壊相と供に、お互いに

不可分の相を伴って転じ、以て分別の境界を分断差別す。謂わく、彼の転ずるところは、修行者の禅三昧に入るが如し（ジャーナの事）、微細の習気転ずるも、而も覚知せず。而も念を作す。識滅して然るに禅正受に入らんと（ジャーナに入る前の時の事）、実に識滅せずして正受（ジャーナ）に入るなり。（正受は、ジャーナに入る事）。習気の種子（受想行識の事）の滅せざるを持っての故に滅せず、境界の転ずる摂受の具わざるをもっての故に滅なり。大慧よ、この如きの微細なる蔵識の屈強辺際は、諸々の如来及び、住地（修行で第一地に到達にすれば落ちることはないのです。）菩薩を除きて、諸々の正覚縁覚外道修行、所作の三昧、知恵の力を持っては一切測量・決了すること能わず。余の、地の想と智と慧とに巧便にして、句義を分別・決断し、最勝のために無辺の善根を成熟し、自身の現ずる妄想・虚妄を離れ、山林に宴坐して、下・中・上に修する者は、能く自心の妄想の流注を見、無量の刹土の諸仏に灌頂せられ、自在力神通三昧を得ん。諸々の善知識・仏子・眷属は、彼の心・意・意識と、自心所現の自性境界と、虚妄の想と、生死の有の海と、業と愛と無知、是の如き等の因を悉くもって超度す。是の故に、大慧よ、諸々の修行者は、応当に最勝の知識に親近すべし。」

（　大先生が法髄観の体感なしに　ここまで噛み砕いて　説かれていられている事に　心から敬意を表します。それに僭越ながら　粗末な　私の解説を入れて失礼しております。）

つまり、この事をかいつまんで言えば、この題目。心、意、意識、五法、自性の相という事を聞かれているのだけれども、何だか分からないでしょう？何を言っているのでしょうか？それは当然の事なのです。

ちょっと日本語の辞典を調べて、書き写したところを見ます。「心、意、意識」とは、パーリ語で、サンスクリット語にもなると思います。ちょっとパーリ語と違うから。チッタ（citta）、マヌ（manas）、マヌビジャーナ（manas-vijñāna）という風に、「心、意、意識」とそういう風に訳していますけれども。チッタというそれ一つは、英語では conciousness、意識になります。結局、チッタ、意識の中に行深のサンカーラ（saṅkhāra:行、形成作用）が入って来ます。

サンカーラとはどういう事かと言えば、こういう事になります。まずパッサ（phassa：触）、パッと contact する。それからヴェーダナー（vedanā:受）、feeling,感じる、「あっ」とすぐ見て感じる。それから、サンニャー（saññā：想）、「ああ、あれは鳥」。そしてチェータナー（cetanā：意思）、volition（意志），

それで心の作用が入って来る。かく心の松果体（pineal gland）からチッタに報告が行くわけですね。そしてその時に、それを急速に究明するために、ワンポイントネス、エーカッガター（ekaggatā：一境性）。そして、ジーヴィティンドゥリヤ（jīvitindriya：命根）、life faculty という風に、そういう風に心の作用が発達して行くわけです。これをチッタの行識の最初の７番目。

という風に、上座仏教では事細かにそれを解説しているわけです。ところが日本では、東京大学の大先生でも、「チッタ」＝「意識」、それでおしまい。それで南伝のお釈迦さまの法随観では、これが一体どういう事かと。第四禅定に入ってこれを観て行きます。チッタをそのものを解析して行くわけです。だから、この違いは凄いと思いますよ。実際に観るのと、（体験なしの）チッタで終わるのと。これがまだまだ続きます。ちょっとお話します。

ルーパの受想行識の分析を体験して初めてわかるナーマその前に物質も観なければ

そして、ジーヴィティンドゥリヤ（命根）、結局、ライフファクルティ（life faculty）と英語で言うのはこの命の源。このジーヴィタ（Jīvita：命）が無ければ、死んでしまうわけ。だから、ジーヴィティンドゥリヤという事が、ナーマ（nāma:名）と、名色のカラーパ（kalāpa:聚）、ルーパ（rūpa：色）と混ざり合っているわけですね。これが分からずにただナーマの名色の、頭で覚えただけでは、これが何を意味しているか分からない。だから四界分別でそこをまず観る事が必要なわけです。

という風に非常に事細かに分析しているけれども、東京大学の日本最高の大先生でもただ「チッタ」でおしまい。これを、非常に有難がって皆さんは「うわあ！凄いもので、仏教経典で！東京大学で！」。これ（仏教講座）を私達が一生やっても、頭がおかしくなりますよ。「心、意、意識と五法」。

では一体「五法」とは何を言っているのか。「五法」とは、名、ナーマ（nāma）、マヌ（manas）、またここで狂うわけ。チッタ（citta）、マヌ（manas）、マヌビジャーナ（manas-vijñāna）、という事で五法と言って、それを日本語で解析した場合には「名、相、妄想、正智、真如」。これ何の事か分かります？分からないのが当然。だって日本で誰も、ナーマ・ルーパのナーマの行課を正式に実際に教えているところは何処にもない。ただ文学だけで教えるけれど、体験しなければ分からない事なのです。

このナーマを知る為にはルーパの「受想行識」の分析を確実に解析していって、初めてそれが分かる事であって、その前に物質界も見なければいけないわけです。その事をこの本では「これは如来か菩薩以外は分からない教科である」と、書かれているわけ。

ところが私は如来でもないし、菩薩でもないし、ただの普通の人間なわけで。「正聞」といえば、アラハト（阿羅漢）になる事とある。とんでもない。「アラハトさま、ああ(笑)」と頭下げる位の方を。だから、これが現実なのですよ。

正法と教典仏教の違いを誰も説明しない不可思議さ

これを見て下さい。（先生が若い頃に取られたノート）。この線引き。私がタタタタタタタッて、「ウーン」って。これはね、この線引きした時は、私はまだパオに行っていない時。パオに行っていなくて、独自に勉強して「いやあ、仏教を勉強したい」と、それで本を取り寄せてカナダで瞑想しながらずうっとやって「そうなのか、ああなのか」と。これが現状。恐ろしいと思いません？

まあ、それで「五法」。この「名、相、妄想、正智、真如」、これはどういう事かと言えば、これはこの「五法」という言い方は楞伽経での意味。また他の意味では心法、心処法、識法、不

相応法相という風にも解釈され、これもどういう事か分かります。これも全てナーマ・ルーパに関係してくる事を、また中国語に訳して中国語から日本語の東京大学の最高の大先生がこういう風に心から教えてくださっているのです。

正法、弘法、戒律、布施、経典（それぞれ五百年の教えの時期があって、今は最後の経典から正法（Vipasana）の時期に入りました）。経典仏教、だからその正法と経典仏教の違いを今、説明して行きます。これだけの仏国であって。それで南伝の上座仏教の人は、こっちの文学が全然分からない。北伝。何を言っているかも分らないし。南伝の方はダンマを言って来るわけなのだけれども。

正確に日本語で伝わっていない楞伽経「名色・行深・34 善心・正智」の事も

名というのはナーマ（nāma）の事。ナーマというのは、この本あるでしょ？この本（パオの分厚い本）。一冊、ナーマ、名。これ事細かに瞑想して解析していきます。それを（日本の学者は）たった一言なのです。一言で「名」。「名色」とあるでしょう？「色」というのは物質の事で。東京大学の大学教授であり、また鶴見大学の学長さんをやられて。でも、肝心な事がね、この一冊が、たった「名」、それでおしまい。

ところがさっき言った、「行深」。「行深観自在菩薩」の行＝サンカーラというのが、このビューティフルユニバースとか。10 年以上前だったかな・・・ユニバーサルリアクション(普遍的行為)と、細かいリアクションとビューティフルユニバーサルシステムと言う事が合わさって、私の言う「三十四善心」という事をよく言ったでしょう？「善心、不善心」の事をサンカーラと言って、34のリアクションがあるわけです。コンピューターでタタタタタッーと。その一つ一つの間にまたジーヴィティンドゥリヤ（命根）とか、もっと細かーい事、ファーストジャーナ(第一禅定)、セカンドジャーナ（第二禅定）と入って行くわけです。それをただ、「名」という事でそれ以上の説明がないのです。

それでまた、「相を表して」。「今日は太陽が出なくて曇っている」と。そういう外景も言うわけですね、「五法」という楞伽経で、東京大学の教授の大先生が訳されています。そして「妄想」。「妄想」はアクサラ（akusala:不善）になります。この「三十四善心」が、A から最後まで行かない 18、または 21、22。これをアクサラと言います。不善心、完全なものではないと。それで妄想を起こして、人を殺したり、盗みをするわけです。それを「妄想」。だからそういう風なアクサラの説明が必要と思います。ナーマの説明形式を現代理論でされてるようです。これが現実なのです。最高の知識の智慧の塊でも体験が無きが故に、理論的に解析されていると思います。誰も質問も出来ない。何を言っているか分からないからです。

それでその後、「正智」。これはパンニャー（paññā:智慧）になります。パンニャーはこのナーマの中の最終。クサラがちゃんと出来た時に、パンニャーが発生します。これをずーっと続けていけば、結局「真如」、これはマーガと言います(真如:tathatā)。空の世界を知るとか。無の世界を知るとか。永遠の時間を知るとか。これはマーガになります。だからもう、完全に飛び離れてしまう。日本語で解析した場合は。結局、達磨大師様がね、中国に 1500 年前に来

て、未だに達磨大師様が言われたこの楞伽経を正確に日本語では伝わっていないわけです。中国、韓国は知りません。私は日本語しか知らないから。私の体験上から観たら　細かい説明が　かみ合わない様です。

ジャータカ物語の真髄の話で行く方が真如に到達できる・本当の真理を知る事

だから、ある程度ね、ジャータカ物語の真髄の話でいく方が、まだ真如に到達できますよと。その手法も、結局私がこう因縁によって、垣間見たサティパッターナ（satipaṭṭhāna:念処経、四念処経）をベースにして、皆さんに私なりに少しお手伝いさせて貰っていますが、想像を絶する体験をし始めるでしょう？ところが、文学で幾らやったって、これは昭和 25 年に書かれた本で、未だにちょっとした触りの、これを超える文献は未だに誰も出していないし、指導する方も出ていません。つまり、実際の事を体感なしにしても、何の結果も出ないどころか、頭がおかしくなってしまいます。これが、今の日本の現状。

だから、正法と経典仏教のこの段差が、これくらいあるという事をお話したかっただけなのです。分かりましたか？だから、私が昔の私のバカさにニヤニヤしてニコニコして(笑)。それで、皆さんが「日本最高の哲学のインド哲学の！、その方が書かれた大学教授の！」、そういう事でしょう？「先生、これは何ですか？」と言う事も質問しないのですか？丸暗記でしょう、皆？丸暗記しなければ、「この大学は無理」って(笑)。丸暗記して、この本を一生懸命頭に入れて、全てこの先生の言う事を解答していったら、マルマルマルマル。

実は皆さんは私よりずっと頭が良いのですよ。本当に！私は小学校でビリだったのだからね。皆さんがこの世でこれだけ、騙されるわけです。だから本当の目で観れば、小学校のビリでも日本最高の叡智の大先生がお釈迦様の偉大な教えを体感していないという事が見えるわけです。だから学校での教育と本当の真理の物事を知る事は全くの別問題なのですね。だから、皆さん、大安心して。大安心して、社会的には地位名誉がなくても、自分の眼で「これが本当だ」という事をたった一つ観るだけでも、すごい事なのです。

ところが私は普通の人間でね、美味しい物をバンバン食べて(笑)。もう身体が疲れたら焼酎を飲んでみたり(笑)。どうしても私はそういう崇高な方の域に入ったとは到底思えないです(笑)。ところが、そう書かれているわけです。だから、経典仏教から見たら、そう見えるのでしょうね。でも、こういう風に実体験した方から見たら、「いや、私は未だにでくの坊で良くないな」と。「これでよろしいのでしょうか？こんな衣着せて頂いて」と思うしかないわけです。いや本当に。

ま、そういう事で、今日はちょっと触りから、とっても日本の最高の叡智という皆さんが憧れているところが、実はこうだという現実。

何か質問ありますか？これについて。

楞伽経の本当の意味

【参加者】

楞伽経って聞いた事がなかったのですが、どういう事を達磨大師様は仰ったのでしょうか？

【水源師】

というのも楞伽経というのは、結局仏が正道して、悟りを開いて、そして完全なる叡智を持った時に、スリランカのスリパーダの山の頂上に登って、全宇宙の仏陀に報告するわけです。その時の第一声が、これなわけです。第一声が「心、意、意識、五法、自照成」の事を話始めるわけです。その内容が今話した様に、その「名」。「名」だけでもこれぐらいあるわけで（分厚い本一冊）。それも、実体験で観ていくわけですね。だから経典でいけば、たった一文字「名」でおしまい。「名」、これ一つで、「はい、わかった」と。「空」、「はい、分かりました」となるわけです。

「Maga」と言うのは結局「真如」の智慧の事ですね。スンニャター(suññatā:空)。まずそこに入れば預流果の位に入ります。それでソーターパンナ（Sotāpanna：預流果）、サカダーガーミン(sakṛdāgāmin:一来果）、アナーガーミ（anāgāmi：不還果）、それからアラハト（arahant:阿羅漢）と。上座仏教ではソーターパンナは、当然これ（パオの分厚い本）を通過しなければいけないわけです。ところがこっちの大乗の経典では「それは仏か菩薩の域にある」と。（実際は大乗の方がもっと厳しく、ソーターパンナは聖者に入らないようです。）その格差が激しいわけです。ところが大乗の方では、「南伝では何をやっているか分からない」と。そういう風に「原始仏教」とか、そういう名前を付けているようですね。

何故私が南伝の国に行って、そこでやっぱり学校を作ってあげたい、何かお布施したいというのは、これ程偉大な宇宙の叡智を未だに守って伝えてくれる所があるという。それで、私の先生が「君、何かしたいと言うのだったら、南伝の仏教国に学校でも作ってあげなさい」と。そう言われて、やっぱり私の大先生の命令ですからね、死ぬ前までには何とかしたいと。それで今回、またスリランカに行ったり、Cさんにお願いしてね、「ミャンマーの国を調べてください」と。「何処が一番良いのか？」と。「御布施するには、何処が一番良いのか？」と。というのは、その国々を心から尊敬せざるを得ない。本当に尊敬せざるを得ない。この違い。この違いによって、日本は西洋に操られて隣国に対して侵略しなくても良かたのに、それを見抜けなかったのですね。

スメリアカルチャーの3200年の計略にあって、今がんじがらめに馬鹿されている

スメリアカルチャー（スメリア文明）のね、ホーリーローマンエンパイア（聖ローマ帝国）の3200年の計略にあって、今、がんじがらめなのです。それ自体も皆さんは全く分からない。その本源を辿れば、「ドゴン」という神を祭っているわけ。スメリアは。魚の衣装というかね、魚

の衣を着て。遺跡にありますよ、ちゃんと。それが神さんなの。「ドコン」というのは、今から20万年前にオライオン（オリオン座）の近くのシリアというという星があるでしょう？日本語ではシリウス。英語ではサイラスと言う。サイラスA、B、Cという太陽が回っているわけです。

それが1853年代にフランスの人類学者がナイジェリアの北のナイガ、マリ共和国という国かな？そこのドゴンという部落を尋ねたら、「実は私たちは大宇宙のサイラスから20万年前に来て、湖に降りてきた」と。これ本当の事ですよ。そしてその後パロマ天文台が出来たわけですね。1948年。そして見たら「いや、なるほど」、サイラスA、Bは見えたわけですね。太陽が二つ見えた。それで。でも、「Cはないから嘘だろう」と。ところが、ハッブル宇宙望遠鏡（1990年スペースシャトルで打ち上げ）で、1990年代か2000年近くにそこを見た時に、A、B、Cとあるわけです。

何故、このへんちくりんな宇宙人みたいな衣装を着て踊るこの人達が、その事を的確に分かるのか？という事で凄く有名になったわけです。北方ヨーロッパでは、神という名前は「オデイン」という非常に似た発音をするわけですね。スメリアカルチャーの「ミスラ」という神は「ディゴォン」。「ミスラ」がちょうどキリストの様な事をしたわけ。バージンマリアから生まれた様に、本当に瓜二つの話なわけ。それから7800年前には、最も古いゾロアスター教、アフラ・マズダーの経典にも全くおなじ様な話が書かれて存在したと。またエジプトカルチャーにも三千何百年前に同じ人が存在するわけです。同じストーリーが出てくるわけです。まあ、話がもっと大きくなったら困るから、ちょっと縮めていって(笑)。

という風に、私達はね、信じている最高のものがこの本（東京大学教授著の仏典講座の本）なのです。肩書きを見たらそうではないですか？到底太刀打ち出来ないでしょう？馬鹿されてもそう言わざるを得ません。悪い言い方ですけど、叡智の大先生（本の著者）も実際に観ていないから、手元にある文献で講義するしか無いわけです。文献がないし、調べようが無いから。でも、書かれたこの本が日本の英知の基盤になって動いているわけです。日本精神界のトップの方が今言った様な日本の現状です。

だから、「本当の事を知りなさい」とお釈迦さまが言うのは、ここにあるわけです。「馬鹿されではいけませんよ」と。その手法で今回、もう来年で丸10年になりますけれど、日本に来て教えながら。それで皆さんが素晴らしい方で、集まって来てここまで到達出来て。私が自画自賛するわけではないけれど、ただ素晴らしいお坊さんのお手伝いで、ちょっとお手伝いして報告して、「こうですよ」と言うだけですよ。私は頭悪いし、ボンクラだからね。そういう風な偉いお坊さんでも何でもないし。普通のただの人間だから。いや本当に(笑)。

だからね、そういう風に勉強しなかったから、暴言みたいに「これ、間違っている」と言えるわけです。また、その確証として体験したこのナーマ・ルーパの、パオのソーターパンナ（sotāpanna：預流果）を通過する様な教科をずっと体験させてもらって、その上で観ているから分かるわけです。だから瞑想以外にこれを見破る方法はないし、瞑想する時は一切難しい本は読まないです、読む時間もないし。経典も読む時間なし。ただただ瞑想だけで「これをしてくれ」「これをしてくれ」と。それで解答するだけです。そして解答してたら、先生は「お！合ってる。よし、次」と(笑)。それだけの事。だから、皆さんはね、今ここに来て、こうして何回も言う様に「ただただ因縁だけです」と。その因縁もデバダッタの因縁ではなく、こういう風に本

当に正法の因縁に繋がっているわけです。

「デバダッタの十法」

　驚く事なくかれ。「デバダッタの十法」というのがあるわけ。「デバダッタの十法」。何を十法とデバダッタさんが言っているのかと言うと、こうなのです。「デバダッタの十法」。それから、「八支正道」という事は、今言った様に彼自身のお釈迦さまではなく、十法、正式な十法ですよ。お釈迦さまの言われた事と、この日本の経典仏教の解説ではなく。それと、「八支」というのは、八つの方向で行けば涅槃に達するという事と、どういう風に修行すれば良いのかという正しい道。デバダッタさん。全く、お釈迦さまを殺そうとした天敵ですね。もう何回も何回も輪廻転生して、意地悪して、最後までこんな事をするわけです(笑)。

　だからこの宇宙はね、そう簡単に正しい道には入れない様になっています。デバダッタが結局お釈迦様が作った教団を分裂させて、「いやあ、デバッダタは素晴らしい」と。「デバダッタさんは！木の下に住み、衣も一つしか持たないで。食べるのはただ野菜だけ」と。「いやあ、これは本者だろう」と。それで言う事が素晴らしいから、教団が分裂して殆どデバダッタの所に行ったわけです。シャーリプトラさんが驚いて「いやいや、これはどうした事だ！」と言って、そこに行って半分連れ戻して来たわけです。「いや違うんだよ」と。「お釈迦様は、貰った肉でも何でも食べる」と。「いやいや。動物の命を殺して食べる。これは何とした事か。これはちょっとおかしいのではないか？」と。「菜食だけが正道である」とそういう事を言うわけです。「なるほど」と。皆迷うわけです。

　今でもそうでしょう？「肉食べたら駄目」とか。それはブラーミン（婆羅門）のヒンズー教の教えの方であって。仏法の方はもっと深いところから見ているわけです。今、クジラさんとかね、イルカさんとか、どんどん死んで行っているわけ。腹を裂いたら、お腹に何も食物が入っていないのです。それでずっと調べて行ったら、大きい魚がいないわけ。小さい魚もいない。何故かと言ったら、福島のラディエーション（放射能）でプランクトンが全部死んでしまって。魚さんは魚を食べて、命を捕って食べなきゃいけないこの宇宙の大仕組みにあるわけです。

　端的に見たら、デバダッタさんの「野菜しかダメ」と。「贅沢しないで木の下に住みなさい」と。「衣も一つしか駄目です」と。衣というのはその時は、手で一つずつ紡ぐから凄い大金なわけです。だから今でも「糞衣」と言ってね、死体を投げたボロ布を紡いで作るわけです。ちょっとそのお話したでしょう？ジャータカ物語で、凄い詐欺師があって、ボロ布をピカピカにしてと。その事なのです。だから、憧れなわけです。衣 2 つ、3 つ持ったらもう大金持ちなのです。

　また、デバダッタではないけれどあるお坊さんが同じ様な事を言うわけです。「お坊さんは質素であれ」と。「人からお布施を貰って、ただのうのうと食うべきではない。衣も一つ。お鉢も一つ。その身に殆ど何も付けずに、サドゥー（修行者）として貰って、ただただ歩いて死んで行くのが本命だ」と言って、皆はオンオン泣いて「そうなんだ、私達は悪い人間で、いつも人からのうのうと貰った」とそれで、ダーナ（お布施）の日に全部置いて行くわけです。それは

一年に一回あるお布施の行事の日です。そしたら、何とその言ったお坊さんがね、荷車持って一杯積んで、他の国に行って売るわけなのです。これ、本当の話です。ダンマパーダでの本当の話なのですよ。

「六部」

また、お釈迦様が一生懸命修行するでしょう？静寂な所で。非常に聖なる所だから、誰も声出してはいけないんですよ。大声で。だから「ありがとう」とは一切言わない。言ったら、音だけで邪魔になるから。ただ粛々と貰って食べて粛々と瞑想していくわけですね。

その時に「六部」というのがあって、瞑想している時にガンガンガンガン音をたてて、瞑想させない様にする人々がいるわけです。そういう事もダンマパーダに書いています。その「六部」とは何か？と。説明したはずですけど、それは日本では説明されてないから、もう一回説明しますね。

インドには6つの哲学教団、叡智を教える宗教団体(六師外道)があって、マッカリ・ゴーサーラ(Makkhali Gosāla：決定論者)という、アージーヴィカ(ājīvika)という内面性もあるけれども、これは「この世は全て悲劇である」と。「突然石が襲い、誰もそれを解決する事が出来ない」とFatalism(宿命論)。「だから私達はただそれをあきらめて見るしかない」と。その「あきらめて見る」という、「あきらめ」というのは、本当の意味はね「正しくしっかり観る」という事。それが今、日本語では「あきらめて、力なく、悲しみ」と。人生そういう風な見方なわけです。

もう一つは、アジタ・ケーサカンバリン(Ajita Kesakambalin：唯物論者)。物質主義。「一切は死によって全て消滅してしまう」と。あなた何処にも持って行けないでしょう？。「無から無に還る。物質だけが本来の真実である」と。だから輪廻転生も無いわけです。カルマも無いわけです。因縁も無い。それは間違っていますね。ずうっと私の目から観たら、輪廻転生あります。

またもう一つ、物質と喜びと痛み、霊は絶対に交わらないと。つまり、エターナリズムと言ってね、パクダ・カッチャーヤナ(Pakudha Kaccāyana：七要素説)、サッサタバダ(Sassatavada：永続論)と。これは永遠なる法則で、神によってあなたが何処に行くか決定してしまうという事にもなります。あなたが発生して永遠に続くと、地獄に行くか天界に行くかと。喜びか痛みか、その事なの。今のキリスト教、殆どそうでしょう？ただカソリズムは、天国とそれから地獄と、それからプルガトーリ…。

【参加者】

リンブ。

【水源師】

そう、リンブ(limbo：辺獄)というのだけれど、リンブは地獄の間に挟まった所で。その間に、霊界みたいな所があるわけです。それを神曲の中に書かれてあります。ダンテ・アギリエーリ

の「神曲」の中に書かれています。そういう永遠説なわけです。だから、一旦神の教えに反したら、天国か地獄か決定されると。それもまた嘘です。地蔵様がおりますから。

それからサンジャヤ・ベーラッティプッタ（Sañjaya Belaṭṭhiputta:懐疑論者）。アンタゴニズム（antagonism：敵対主義）と英語で言うのは、「これはこうだよ」と言ったら、「いや、違うでしょう」と何時でも疑問で「正式にはこうではないか？ああではないか？」という主義なわけ。「決定的な真実はない」と。

ところがさっき言った様に、マーガ、パンニャ、大真理がこの宇宙に絶対に揺るぎないものがあります。空の世界もあるし、無という世界もあります。絶対にゆるぎない、そこから全てのカラーパ、ナーマ、名色が出て来ます。

という事と、またはプーラナ・カッサパ（Pūrana Kassapa：道徳否定論者）。アモラリズム（Amoralism：無道徳主義）と。これは何かと言ったら、「誰も善悪は決定出来ない」と。「善悪というものはない」と。見方によれば、悪が善、善が悪。今のアメリカがそうなのです。また神を信じれば、「全て神がやるから私に責任はない」と。「神は正しいから、全て。神によって私は生まれ、私のする事は全て神の作用によるから。私というものはない」と。「だから一切の責任なし」と言うわけ。だから、善悪説なし。社会が成り立たない。盗んでも良い、破壊してもOKとなる。

―（先述の地獄の間の話）プルガトリー（purgatory：霊界）。パーガトリーが霊界の、カソリックだけがそれがあります。クリスチャンは天国か地獄。―

もうひとつはニガンタ・ナータプッタ（Nigaṇṭha Nātaputta：ジャイナ教の開祖。相対論者）。ジャイニズム（Jainism：ジャイナ教）。ジャイニズムは、非常に戒律が厳しくて虫も殺さないのです。

さっき言った様に、魚がいっぱい死んでいるのです。イルカとか、お腹に何もない。海に生命が消滅し始める。もう実態の事で。この事はもう2600年前にお釈迦様が「間違っていますよ」と。この6つの考え方の、今でも同じ。主流はこの6つの哲学しかない。何処を取っても。ニヒリズム（虚無主義）とか全てここに入っています。

それで、この6つのそれぞれの学校が、お釈迦様が瞑想している所に音を立てて、邪魔しに来るわけです。6つだから「六部」というわけです。だからこういう実際の事を聞いたら納得行くでしょう。説明したら。でも、こういう風な難解な（仏典講座の本）を述べられたら、一体誰が分かって誰が証明するのでしょうか？これは証明無し。実際の因果関係とか、実際にどうして修行するのかという修行法は無し。何故かと言ったら、「これを理解出来るのは、菩薩か仏だ」と。では、その仏教は人間と関係ないことになります。でも九死に一生と　尊い御坊様が沢山の命を落としながら、偉大なお釈迦様の導きを　当地に持って来て下さったのです。ですから　いつの時代かで理解が出来なく書かれたと思われます。

【四念処】（4つの手法）で涅槃に到達できると何故日本のお坊さんは言わないか？

ところが、上座仏教の方は、こういう風に「観れますよ」と。「究極の世界の物質界から宇宙から全て観れますよ」と。「サマタ、ヴィパッサナーの手法で見えますよ」という。法随観、ダンマヌパッサナー、チッタヌパッサナー(心随観)は達磨大師、それからヴェーダヌパッサナー(受随観)、そしてカーヤヌパッサナー（身随観）、4つの手法で、全てあなた方は涅槃に達しますという。実際に垣間見ることができます。

仏教講座の本、100年読んでも頭痛くなるくらい難しい本。分からない。それよりだったらね、ただ座った方が余程ご利益があります。ただし、正しい手法で瞑想することです。間違った手法の教団の方向では無く。だからこの6つの解析をしていますから、だから全ての教えがこの中に入っているから、今現在でも人間の考えって変わらないのですね。

【参加者】

そうですよね、凄く納得しました。そこに騙されます。

【水源師】

そうでしょう。

【参加者】

気付いたら、それ（間違った教え）をやっている時があって・・・びっくりしました。

【水源師】

ああ。そう。2600年前。今でもそう。そうでしょう？変わらないでしょう？という事をお坊さんが、日本の大乗仏教のお坊さんが言わなければいけないわけです。何故かと言ったら、皆さんから膨大なお布施を受けているでしょう？お寺もあるでしょう？キンキンギラギラ御殿もあるでしょう。これ（パオで修業された本）ないのです。でも、その中で必死に日本のお坊さん方はただ修行して働いてお寺の為に、一生懸命苦労して守って、教えられた事もくもくとして。

でもトップの方はこういう事をわきまえなければ、人々は疑問に思うと思います。つい、この間も東本願寺のお坊さんがね、「残業手当を貰ってない」と。宿坊というのは、やっぱり今はホテルみたいなもので、昔と違って。昔の宿坊は修行で本当だろうと思うけれど。裁判所が「その通りですね。660万をお坊さんへ払いなさいと通告しました。」と。これは、ちょっとね。私は貰わなくても良いのですよ。

そういう所でね。そこまで商業ベースになってしまったという所が問題なのですね。また、そうさせたと。それに疑問を持たなくなってしまったと。

と言う事は、こういう本（パオで修業された本）を正式に読める人が、解説してくれる人がいないし、実態として修業法も「はい、『名』はこうします」という事を誰もしていないわけです。こういう事を教えられたら、もう命を捨ててでも「有り難や」ってただ働きでもするけれども。

ただ「はい、『名』、『空』それでおしまい。『全ては空』それでおしまい。はい。わかった

ね？働きなさい」って言われたら、ちょっと無理があると思う。

ジャータカ物語・ヴァーラーナシ―の「ブラフマブッダ」

まあ、そういう事で、あとジャーカタ物語を最後に一つ。お釈迦様がどういう事を言われたかという事をちょっと、もったいないから、私の解説ではなく、ちょっと物語をお話させて戴きます。この話はね、お釈迦様が竹林精舎に居た時に、その時にパンドゥカとロティタというお坊さんと、ミタヤ、ウンマヤという 2 人と、もう 2 人、キタグリ、アサジという 6 人のお坊さんが討議していたわけです。

この中の 2 人が、いつも他の 4 人を押さえつけて、パンドゥカ、ロティタが「卑しい身分の者は、意見を述べるべきではない」とか「君達は若いから一切の意見を述べてはいけない」とか、そういう風に何時も押さえ付けるわけですね。そこで、お釈迦さまの所へ行って、「この先輩達は、私達を何時も色んな理由を付けて押さえつけます」と。

お釈迦様は、この二人のお坊さん、パンドゥカとロティタに「君達は他のお坊さんにそんな事を言ったのか？」と。「はいそうです」と。「そうなのか。君達 2 人はその昔、同じ事をしていた」と。「何をしていたか」と。昔、昔、遠い遠い昔の話をしたわけです。

ずっと遠い昔に、「ブラフマダッタ」という方がヴァーラーナシーの王様で、この言い回し何回も出て来るわけです。それで皆さんが疑問に思う事があると思います。ヴァーラーナシーはインドの今のヴァーラーナシー。「キングブラフマダッタ」という名前が何回も出て来るから、そんな遠い遠い昔の話なのに、何故「ブラフマダッタ」とか「ヴァーラーナシー」が何回も出て来るのか？と。

「マンデラ・エフェクト」

これには、本当のこの地球の秘密を知らなければ読めない様になっています。昨日もお話した様に、ロシアで 8 億年前の棺桶が出て来たわけです。その棺桶の中には、特別な液体が入っていて、ガラスの様な（大理石）棺桶から見たら、非常に綺麗な白人の女性だったそうです。

それはね、石炭の地層にあるから、石炭は 8 億年前まではその地層にはないわけです、だからジャングルであったはずと。石炭の中から出て来たから、完全にその地層から出てきたのです。人間が埋めた形跡もなく。それが中央政府に報告されて、ヘリコプターが来たわけです。

ヘリコプターで来て、　そのガラスの棺桶を持ち上げる時に、あまり重いからその液体を抜き去ったらそしたら、その女性が真っ黒な顔に変わって来たから驚いて、また戻したわけです。それが 1969 年の話、実際の話で。前にもお話した様に、その後、沢山のヘリコプターが

来て、1 つだけではなく、3 つという報告があったけれど、実は沢山のそういうガラスの様な棺桶が中央政府の方が持って行ったみたいです。それで、その DNA を調べたら現代のロシア人の一般の DNA と変わらないと報告がありました。

だから「ブラフマダッタ、ヴァーラーナシーのキング」と何回も出てくるわけです。時空が 8 億年前と現在のロシア人の普通の DNA と同じものがあるわけないのだけれども、地層は 8 億年前。タイムマシンでそこへ行ったのか？この地球はだから訳が分からない。だから、そういう見方をすれば納得がいくわけです。私は何の疑問も思う事なく、その通り読んでいくわけです。ところが、そういう報告とか実際の事が分からなければ、これは皆お伽話になって、実態がおかしくなるわけです。

これを「マンデラ・エフェクト」と言ってね。他の空間とこの空間が入り混じっているみたいで、マンデラさんは 30 年間刑務所に居ったでしょう？突然出て来て、全部変わっていたと。この地球上にそういう実況がいっぱいあるわけです。8 億年の時空と言っても、ただ時空が変わっただけで。それがタイムマシンに乗ったみたいに、一瞬にして石炭の鉱山の中に入っていったか？と、そういう事になるのだけれども。

お釈迦様が盗賊の大将だった時の陥れようとする大鳥達は竹林精舎の比丘二人

（ジャーカタ物語に戻り）「その時に君達はずうっと遠い昔に、同じ様な事をしていた」と。「私はその当時、その近くの村でお百姓さんをしていたけれども、非常に実入りが悪いので、その時その村人達と一緒になって盗賊になった」と。「泥棒になって、私は 500 人の盗賊の大将だった」と。「その近くの村の貧しいお百姓さんのお父さんが、遠い街の方に千の銀と言うかね、大金を貸した」と。「そのお父さんは死んでしまった」と。お母さんもドンドン病気になって、そのお母さんも覚えているわけです。誰に貸したか、何処に大金を貸したか。

息子もドンドン大きくなってね、お母さんが段々体が弱くなってね、「おい、息子よ。お前のお父さんは凄い大金を誰々に貸しているから、取りに行きなさい」と。それでその息子はテクテク歩いてその町に行って「お父さんのお金を返して下さい」と。そしたら「はいはい」と返してあげたわけです。そして、テクテクと歩いて行くのだけれど、お母さんがもう歳をとっているから、何時死ぬか分からないわけなのですね。

その時、息子が大金を持って帰ってくる事が分かるのであまりの心配の事で、そのお母さんは狐に変身して息子の所に飛んで行ったのです。そして、その息子に一生懸命「この森に入ってはいけない」と。「500 人の盗賊がいるから。行ったら必ず金を盗られる」と。心配して心配して、お母さん狐が裾を引っ張ったり何とかするわけですね。その時に、天からサギが飛んで来てね「やあ、この森の方が良いよ。入って行きなさい。入って行きなさい」と言うのです。「何の心配もないよ」と。この鳥は知っているわけ「入って行けば必ず大金を盗られる」と。

それで、その息子はそのお母さん狐を叩いて、「森に転々と大鳥が飛んで行くので、これはいい事があるのではないか？」と言う事で森に入って行ったわけですね。そしたら、そこに

盗賊がちゃんと持っていて、「一体お前はどこから来た？何の為にここを通って…？」と。「いや、実はこうこうこうで…」と。お金も大金を持っている事も言ったわけ。

やっぱりお釈迦さまは菩薩だから、「よし、そうか。実はお前のお母さんはもう死んだ」と。「お前の為に狐になって助けようとした」と。「ところが、この天を飛ぶキャーキャーという鳥は、これはお前を陥れる為に言っている事であって。それが実はお前を助けるどころか、陥れようとしている」と。という事をお話したわけです。

もっと詳しく話せば、面白いストーリーだけれども。その時にこの 2 人のお坊さんが、結局この言い合いをしたパンドゥカ、ロティタという 2 人の人が鳥になって、息子を一所懸命押さえつけて、言わせないと。「同じ事をお前はして、お母さんを押さえつけて、そして誘った」と。「実はお前達 2 人の比丘、過去にこんな事をしていたのだよ」とお釈迦さまが仰った。

だから、そういう人でもお釈迦さまの教団に入れるのですね。お釈迦さまもまた、盗賊のロビンフッドみたいな大将だったけれども、物事をよく見えるから悪い事をしないわけです。「はい、通りなさい」と通したと。という風に本性はなかなか変わらない。でも「本性は変わらないけれども、良い所に入って一生懸命修行すれば、涅槃に達しますよ」と。

だから皆さんが、「ちょっと悪い事をした。何とか…」と私達は悩むけれども、特にこう言う凄い方の本（仏教講座）を読んで「いやあ、神が言うのか？天界から降りてきた様な言葉で「どうしよう？頭痛いし、分からない！」と(笑)。そうでしょう？大政治家でも訳の分からない「ミサイルが来る！何とか…」で踊りまくるし。そういう言葉も見つからないですね。という風な事が 2600 年前。さらに遠い遠い昔から変わらずにね、永遠と繰り返していますよ。ただ一つ、本当の正道に入るというのは皆さんがしているこういう瞑想をして下さいと。私ではないですよ。私はただお手伝いをして、その手法を紹介しているだけで。私の大先生、大先生の大先生。偉い偉いお坊さんが集め伝えてきた大切な教えを、それをただ紹介しているだけで。実はあなた方が、たったそのちょっとしたアイデアを貰って正道したのは、あなた方自身なわけです。ただ私はちょっとした情報をね「こうですよ」と言っているだけで。その情報が今までなかったという実際にその情報をちょっと与えたら、皆さん驚くべき結果、日本で聞いた事のない様な事がドンドン発生して。過去の不動明王とかそういう実体も体験されて。ただ座るだけで。ま、こういう話は日本では聞いた事もないと思うし、みんな「嘘だろう」となるわけなのです。出来ないのが本当で「この話は嘘」となるわけ。これが私たちの生きている現実なのです。皆さんがここまで良く頑張られて、もう非常に短い間で。1年の間にちょっと教えても、ここまでザーッと来るから、皆さん方一人一人大先生になるはずだから、人の為に世の為に一所懸命修行して、ブッダのお手伝いをされる事を心からお願い致します。

Full
Cream
HiCal

質疑応答

「マンデラ・エフェクト」よりもはるかに超えるお釈迦様の教え

【水源師】
　質問ありますか？何か超難しい話しと超お伽話と(笑)。

【参加者】
　先程、8 億年前の地層から、現代のロシア人と同じ DNA を持った遺体が発見されたという事ですが、それは結局タイムマシンで行ったって事なのですか？

【水源師】
　いや、時空はね、決定出来ないと。過去が未来になったり、未来が過去になったり。実際に時空がどうなっているか分からないわけです。私も自分の過去生を観たらね、過去とか未来がなく、未来が過去に戻ったり過去が未来になったり、そういう事をしています。一直線ではないです。でも、私達は一直線としか思っていない。

【参加者】
　写真があります（8 億年前の地層から発見された棺）。

【水源師】
　そうですか。それはロシアアカデミーで発見された正式な文献？

【参加者】
　今、（ネットで）パッと調べて、出所は分かりません。

【水源師】
　だから、そういうベースの実態を知ったら、皆もう腰を抜かしますよ。ところがお釈迦さまの教えはそれを超える教えだから、私にとっては「なるほど、そうだろうな」としか思えない。つまり、素直に何でも受けるというのではなくても、やっぱり瞑想して目が開けば「これが本当で、これは違うだろうな」という事が、直感的に解るわけですね。
　私もカナダに行って数学を勉強してね、ライプニッツというドイツの微積分の関数、アイザックニュートンのその違いを研究していったわけです。そこで数学を強烈にやったものだから、直観力があるわけですね。直観力と集中力。だから働きながら大学に行ってね、報告書も出さなければいけないし、夜も殆ど寝ないでやっていて、家内とも 1 ヵ月顔を合わせない時もある。同じ家で。窓ガラスも壊れて、それでワーッとやっていたものだから。それだけ集中したら

ね、空が虹色に見えて不思議な現象が出てくるわけです。集中力で。会社の人もね、もう脇目も振らずに私が微積分を解答をしてダーッと紙にババババッと書き続けるわけね。「頭、破裂しないの？燃え切らないの？」(笑)。という事をしたから、そこで集中力を養ったわけね。

…という風な呑気な会社で働いていました(笑)。それで早々と退職して、「バイバイ」と、こうして。まあ因縁ですね。皆さんに報告するためになっているのでしょうね。今こうしてみたら。だから皆さんも、楽々で、適当にとは言わないけれど、まあ根を詰めずに。こういう事（仏教講座の本）をやったら、頭が狂います。

【参加者】

（外国の方）この先生は、お金のためビジネスで書いたのではないですか？今はクリスチャンも二ついて、本当のクリスチャンもいれば、新しい人達は嘘つきです。多分仏教も同じ様な事だと思います。

【水源師】

東京大学の教授だから…、まあ言いたい事は分かります。「正法、弘法、戒律、布施、経典」。この経典で最後の方だから、結局こうなったわけで。それがやっぱりキリスト教でも一緒で、わけの分からない難しい事を書いて、本当の事を抜かしてしまう。全世界一緒です。もう全世界殆ど。

でも、こういう風に、一生懸命に修行する方法もまた遺しているわけです。だから感謝感激で、何とかそういう南伝の方にね。非常に貧しいんですよ。あっちの方は金で生きてないから、心の修行で生きているから。何とか少しでも、皆さんから戴いたお布施はそこに回そうかなと。そういう事で、皆さんもまた凄い高徳を受けます。

【参加者】

最後に一つだけ教えて下さい。先生が過去生を観られた時に、過去が未来で未来が過去と仰ったと思うんですが、例えば、僕が今死んだとして、過去に転生する事もあるわけですか？

【水源師】

そういう時代ですね。そういう時空。

【参加者】

この地球上の過去ではなく？

【水源師】

いや、地球上の過去であっても、そういう文化。でも、全く違うさっき言った「マンデラ・エフェクト」で、同じ様な江戸時代の所に落ちるのだけれども、江戸時代の文化と全く一緒だけれども、違うわけ。

【参加者】
　では、今僕らが生きている世界もズレがあるって事ですか？

【水源師】
　もちろん、そうです。

【参加者】
　こうやって皆一緒にいる様に見えているけれども、時空がズレている。

【水源師】
　そうです。ズレが生じた時に、グレイというETはね、アイゼンハワー大統領の前でパッと姿を消すわけです。ズレで。「ギョギョギョギョ！ウワー凄いものだ！」となるわけです。それで、また、時空をパッと変えて現れるわけ。それをニコラス・テスラーさんがね、フィラデルフィア・エクスペリメント（1984年制作のアメリカ映画）を見てください。実際にあった話で。結局ヴァイブレーションを変えるわけですね。船の前と後。そしたら、この時空から消えて、また100km先に現れるわけ。それで、現れた時に、船員が頭が半分鉄の中から出たり、それから身体半分が鋼板の中に入ったり。
　結局1940年代かな？日本軍と激しい戦いをやっていたでしょう？その原因はどこから来たかと言えば、実は宇宙人がさせている。その前はね、航空母艦とかもないのです。それからレーダーもないのです。という事に突き当らざるを得ないと、軍人が言っているのです。そういうトップのね。将軍達が言っているわけです。
　だから、昨日言ったでしょう？「私達は霊長界のトップだ」と。「実は牛馬みたいな所にいるかもしれませんよ」というニュアンスをちょっと言ったのはそこで。ただただ一つ私達が自由になれるのは、このお釈迦さまの心で「欺かくことなかれ」で生きて行きなさいと。それだけですと、そうすれば必ずや涅槃に達すると。シーンとなったけれど。

【参加者】
（笑）

【水源師】
　余りの事に皆ビックリするけれど、本当に全て文献から言っているのですよ。欲しかったらそれを印刷してバーンと出したら、まあ日本がひっくり返ったら困る(笑)。

【参加者】
　先程言われた江戸時代が似ているけど時空が違うと言うのは、パラレルワールドの事ですか？

【水源師】

そう、パラレルワールド。この一秒間に100兆か200兆の宇宙が重なっていると。ヴァイブレーションがサアーッと。という事を200年続いた家系のケンブリッジ大学の数学者の教授がね、数学ばかりやった方、200年。その論文を出したのは今から30年前くらいの事。それで、今、パラレル・ユニバースが出て来ています。それはヴァイブレーションの違いと。

というそれ以上の事をお釈迦様は教えていますよ、と言っています。だからこれ程の宇宙の最高の宝物を、今、あなた達は目の前にしているという事で、それは法華経にちゃんと書かれてあるわけです。家宅の何とかあったでしょう？（法華経『三車火宅の譬え』）家がバーッと燃えて、長者が「出ておいで、出ておいで」と。全くその通り。全くその通り。ただ出てくればもう凄い御褒美が来ると。という事をあなた方は今、「はい。今出て行きます」と言って、凄い御褒美がもう目の前に待っているわけです。でも、それくらい仏というのは偉大、超偉大です。

水源禅師法話集 74
(2017 年 5 月 1 日 大阪合宿 3 日目)

2018 年 1 月 21 日　発行

編集兼発行　一乗禅の会